



社会福祉法人

いのちの電話 東京

2024年度 事業報告



はじめに

いのちの電話に温かなご支援とご協力を頂いている皆様、お変わりございませんか。

活動 50 周年を過ぎ、間もなく 55 周年を迎えようとしております。大きな節目には、普段の活動に加えて、特別な行事など非日常のことが催されます。私たちは、目に見えるものに心が奪われがちです。しかし、毎日の積み重ねがあってこそその非日常体験であることも、私たちは意識していなければなりません。日常で出会う身近な人や出来事、陰で支えている存在を大切にすることが、私たちの活動とつながっているからです。

今回は、私共の活動の積み重ねから見えてきた、現代社会に生きる上で大切なことへの「問いかけ」を共有させて頂きたいと思います。「私たち一人一人に、何ができるのか」という視点からです。

「どうして私を見てくれないの」という家族の声、「どうして私を物として扱うの」という様々な分野で社会生活を送る人々からの声、「どうして人が困っている現実から目をそらしているの」という内なる声。私にもある「日常生活に支障がなければ、それでよい」という心が、いつの間にか、「困っている人への無関心・無感覚、そしてこの心に密かに忍び込んでいく無気力」につながっているようです。残念ながら、私たちの活動仲間からも、こうした声は聞こえてきます。

私たちは、「善き出会い」を通して、一人で嘆き・苦しみ・悲しみ・救いを求めておられる方々に、少しでもお気持ちが軽くなるようにとの「情緒的支え」や悩みの解決に役立つと思われる「社会資源情報の提供」などの相談援助を行ってきました。最近ではこれに加えて、活動の中で培ってきた「思いやる心と知恵を生かした関り」を、地域の社会で生かして頂くために、地方公共団体、企業、学校などで出前講座などを実施しております。いわゆる、「予防教育」や「心理教育」などの実施です。

今後の活動の方向性として、現代社会で脆弱になった「地域社会の見守り」の役割を意識した取り組みが考えられます。青少年の自殺者の増加や高齢者の孤立化などに対する活動としては、当事者よりも家族・学校関係者・職場の関係者など身近な人たちを対象とした支援活動などです。そのためには、環境の整備と運営に携わる関係者と活動の担い手である相談員が共に、可能・不可能を含めて、知恵の出し合いが今後求められます。

今年度の活動内容、相談実態などにつきましては、後続の報告をご参照くださいますように。近所の桜まつりでは、ライトアップされた夜桜を目当ての見物客や出店で賑わいを見せていました。人工的な美も一興です。一方で、静かに朝を迎えている桜の樹々からは、一年間の歩みからなる静かな美を感じました。私たちの活動もかくありたいと思います。前年度に引き続き、皆様の温かなご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人いのちの電話

理事長 末松 渉



斎藤友紀雄さんを偲んで

～活動を生み出す力、持続させる力、仲間と共に歩む力～

「いのちの電話」の活動にとって「大切なものは何か」について考える時、また「状況の変化が生み出す課題の取り組み」を考える時、折に触れて参考にする書物に『いのちの共振れ・・・いのちの電話 20 年史』があります。ボランティア活動への誇りと謙虚さ、社会的責任の自覚と覚悟が感じられます。この冊子の編纂に身を粉にして取り組まれた人が、斎藤友紀雄さんです。

先般行われた告別式（2025 年 2 月 25 日ご逝去）での、活動の先導者ヘットキャンプさんの弔辞の一部を紹介します。

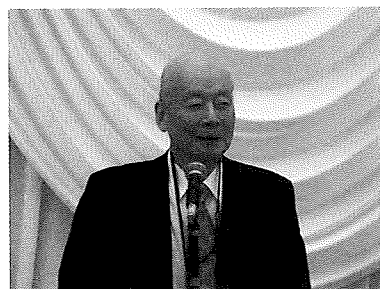
・・・富坂にある自分たちが要らない小さな古い建物を使わないかと、声掛けがありました。それぞれの部屋は床から天井まで黒いペンキで汚いところでした。理事の方々は、それを見て「無理ですよ」と言いましたが、私と 3～4 人の女性は「これをきれいにして使いましょうよ」と決心しました。その仕事は、なかなか大変でしたので、一人でも男性が手伝ってくれるなら助かると思いました。それで斎藤友紀雄さんはどうでしょうかと考えたのです。でも壁を全部綺麗に洗い、そのあとペンキを塗る仕事を、牧師としてやる気持ちがあるだろうか？とも思いました。友紀雄さんは案外早く、仕事に合わせた古いズボンはいて必要な道具を持って、一生懸命に仕事に精を出したのです・・・

「いのちの電話」の活動の先導者ヘットキャンプさん達の‘嘆きを胸に、心の奥で救いを求めつつ、日々を送っている人たち’への思いやる心が、「いのちの電話」の活動を生み出しました。その心に共鳴した斎藤友紀雄さん達が活動を担っていきました。

海外の電話相談や自殺予防関連書物の翻訳、「いのちの電話」を始め電話相談関連の書物の執筆や監修、現在の連盟構成センターの設立の援助、自殺予防学会との共催企画や海外のセンターの視察などに、積極的に取り組んでこられました。柔軟な発想と視野を広く持ち、社会的資源の連携を図りつつ、ボランティア活動の質的な向上への取り組みに、牧師としての働きの使命を見出されたのではないかと思います。

担当を終えられたボランティアの方々に、コーヒーを淹れて歓談されている斎藤さんが見せる楽しそうな表情から、“本当は、担当活動をなさりたかったのだな”とも感じました。‘自分の思いではなく、内なる声に従う’人が身近におられた僥倖に感謝の思いです。

「愛のない知識は人を高慢にし、知識のない愛は人を惑わす」（聖ベルナルド）を心に銘じつつ、ボランティア仲間の皆様と共に、私もまた歩んで行きたいと思います。（末松渉 記）



斎藤友紀雄さん



ヘットキャンプさんと斎藤友紀雄さん

《斎藤友紀雄さん 略歴》

1936 年、東京生まれ。

1971 年、ドイツの宣教師ルツ・ヘットキャンプ先生を中心とした「いのちの電話」の設立に関わる。事務局長として「いのちの電話」で実際に働く。

1997 年から 2002 年は、常務理事を兼務。

日本いのちの電話連盟常務理事、日本自殺予防学会理事長、青少年健康センター会長、キリスト教カウンセリングセンター研修所長を歴任。

2012 年、「いのちの電話」を代表して藍綬褒章叙勲。

2025 年 2 月 25 日、逝去。享年 88 歳。

社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針

社会福祉法人いのちの電話は、苦悩の多いこの時代に生きるものが互いによりき隣人となって、ひとりひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。

「いのちの電話」は、思いを同じくする多くのボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に、次に掲げる事項を基本として活動します。

- 一、「いのちの電話」は、すべての人、とくに危機に直面している人、自殺を考えている人、孤独のなかにあって、助け・慰め・励ましを求めている一人一人に向けて開かれています。
- 一、「いのちの電話」は、相談者に対してよき隣人として開かれた心を持ち、親身になって対応することを基本とします。
- 一、「いのちの電話」は、相談の秘密を守ります。
- 一、「いのちの電話」は、相談者と相談員の双方の匿名性を尊重します。
- 一、「いのちの電話」は、相談者の思想、信条、信仰等を尊重します。
- 一、「いのちの電話」による電話相談は、無料です。
- 一、「いのちの電話」は、所定の研修を受けた人たちによって一日 24 時間体制で相談を受付けます。
- 一、「いのちの電話」は、電話相談以外の相談事業についても上記に述べた諸方針で行います。
- 一、「いのちの電話」は、主として寄付によって自主的に運営されています。

2024 年度社会福祉法人いのちの電話概況

2025 年 3 月現在

設 立	1971 年 10 月 1 日開局	相 談 時 間	24 時間（年中無休）
法 人 認 可	1973 年 12 月 24 日	活 動 内 容	電話相談 インターネット相談 医療相談 フリーダイヤル （毎月 10 日・毎日 フリーダイヤル）
組 織	理事 11 名・監事 2 名・評議員 13 名	相 談 員 養 成	年 1 回公募
相談員実働数	230 名	相 談 員 研 修	継続研修 全体研修会等
認定者累計	1,939 名	運 営 費	年間経費：約 4,000 万円
受 信 件 数	19,637 件（2024 年 1 月～12 月） 男 8,458 件 女 11,101 件 その他 78 件	機 関 紙	広報誌「いのちの電話—東京」
総受信件数	開局以来累計 1,442,359 件	関 連 団 体	一般社団法人日本いのちの電話連盟 日本自殺予防学会

2024 年度 活動内容

Ⅰ 実施した研修

1. 養成研修 (18 ヶ月)
 - 57 期生 (2 年目) 第Ⅲ期 21 名、インターン期 19 名 ● 58 期生 (1 年目) 第Ⅰ期 28 名、第Ⅱ期 23 名
2. 継続研修
 - '24 年 4 月～'25 年 3 月 (8 月は除く)
3. 全体研修 於研修室 300 A 及び ZOOM
 - 「相談を受ける側のメンタルヘルス」7 月 31 日 (水) 講師：杉山雅宏氏 (東京家政大学教授) 参加者：59 名
 - 「ことばが紡がれるとき～対人関係職の『専門性』を高めるために」10 月 12 日 (土) 講師：兵藤智佳氏 (早稲田大学准教授) 参加者：29 名
 - 「保護司の活動について」11 月 30 日 (土) 講師：吉田研一郎氏 (更生保護法人 全国保護司連盟 事務局長) 参加者：35 名
 - 「発達障害者の当事者研究～コミュニケーションの手前にある身体的特徴に着目する～」講義の動画視聴を 2 月 8 日 (土) ～ 2 月 28 日 (金) の期間に実施 講師：綾屋紗月氏 (東京大学特任准教授) 参加者：42 名
4. スキルアップをはかるための個人スーパービジョン
 - 講師：飯島睦子氏 (元研修委員長) 岩田淳子氏 (成蹊大学特別任用教授・臨床心理士) 逸見敏郎氏 (立教大学教授・臨床心理士) 参加者：16 名
5. インターネット相談研修
 - インターネット相談員養成研修
 - '24 年 10 月～12 月 講義と OJT 参加者 4 名 (東京 3 名、他センター 1 名)
 - インターネット相談コーディネーター養成研修
 - '25 年 1 月～3 月講義と OJT 参加者 16 名 (東京 4 名、他センター 12 名)
 - インターネット相談員継続研修
 - '24 年 7/19 「シェアリング実習①」(13 名)、'25 年 3/21 「シェアリング実習②」(33 名 東京 14 名、他センター 19 名)
 - インターネット相談コーディネーター・フォローアップ研修 '25 年 3/7 (7 名)

Ⅱ 活動

1. 役員会
 - 理事会 第 38 回～第 40 回 (3 回) '24 年 5/15、11/21、'25 年 3/12
 - 評議員会 第 19 回～第 20 回 (2 回) '24 年 6/5、'25 年 4/3
2. 運営協議会
 - 委員会の開催 第 138 回～第 143 回 (6 回) '24 年 5/11、7/13、9/14、11/9 '25 年 1/11、4/12
3. ボランティア委員会
 - 各継続グループから委員を選出し、隔月に委員会を開催 (5 回) '24 年 5/11、7/13、9/14、11/9、'25 年 1/11 内容は、相互交流、情報・意見の交換、連絡、行事への参加協力、研修への提案、組織運営への理解と提案等
 - 全体会 (毎年 3 月) の企画・実施 3/8
4. 広報委員会
 - '24 年 10/23、'25 年 1/10
5. 財務委員会 (3 回)
 - 財務 (予算・決算・その他) ● 委員会の開催 '24 年 4/25 (決算案)、11/1 (中間決算等)、'25 年 2/26 (予算案)
6. インターネット相談委員会
 - 委員会の開催 (4 回) '24 年 6/24、9/30、12/2、'25 年 3/3
 - コーディネーター会の開催 (9 回) '24 年 4/17、5/17、6/21、8/16、9/20、10/18、11/15、12/20 '25 年 1/17
7. 研修委員会
 - 委員会の開催 (5 回) '24 年 4/16、5/21、7/11、9/19、12/10、'25 年 2/14
 - リーダー会： 定例研修会、宿泊研修、継続グループ運営、相談員のケア、スーパービジョンの研修と実施 '24 年 5/19、7/29、9/28、11/29、'25 年 1/25、1/26、3/29
 - 地域連携プログラム：'24 年 8/29、11/10 (池袋保健所 計 15 名)、10/10 (杉並区保健所 35 名)、11/20 (世田谷区保護司会 40 名)、'25 年 2/15 (目黒区 19 名)、3/11 (中央区保健所 33 名) 合計 142 名

Ⅲ その他

1. 相談員 (59 期生) の募集
 - '25 年 5/3 まで募集
 - 応募者 58 名
2. 感謝式・全体会 (3/8 (土))
 - 永年勤続感謝：30 年 1 名、20 年 7 名、30 年 3 名、10 年 5 名
3. 厚生労働省事業への参加協力 ('24 年 1 月～12 月)
 - 「自殺予防フリーダイヤル」に参加
 - ・ 毎月 10 日 朝 8：00～翌朝 8：00
 - ・ 毎日フリーダイヤル (16:00～21:00)
 - ※ 専用電話 2 本 参加者：延べ人数 82 名 受信件数：444 件
4. その他 苦情対応 事務局で対応 相談事業に対する苦情 39 件 ('24 年 1～12 月)

2024 年度 相談の実態とその傾向

● 電話相談の統計から（2024 年度事業報告）

2024 年（1 月～12 月）の電話相談受信件数は 19,637 件（前年比+1.7%）であった。コロナ禍以前の 2019 年実績（21,440 件）に届かなかったのは残念であるが、着実に回復しつつあると感じている。相談員数について、多くの方にご応募いただいているが、相談員の高齢化から、定年を含め辞任する相談員も多く、相談員の増加が進んでいない。受話器を“置けば鳴る置けば鳴る”受信状態を考えると、相談員の増加が、受信件数の増加に最も重要な要因の一つと考えている。男女比では、女性からの相談が多い傾向に変化は見られなかった（男性 8,458、女性 11,101、その他 78）。相談を利用した年代は 50 代が最も多く、次に 40 代、60 代と高年齢層の増加傾向が続いている。相談の内容では、何らかの生きづらさを抱えてきた人たちが、一層追い詰められて、孤独・孤立・精神的病・就労困難・老親の介護（8050問題）など、一人で複数の問題を抱えて、生きづらさを訴える相談が多く寄せられた。自殺志向は、20・30 代の年代別自殺志向率が、16.5%（20 代 15.9%、30 代 16.6%）と、他の年代（40 代 14.5%、50 代 12.4%）より高い傾向にあった。20・30 代の相談件数の全体に占める割合は、20 代 3.3%、30 代 11.3%（40 代 19.7%、50 代 28.4%）と低いが、20・30 代の相談者が、危機に直面した時に、「今ここで」の救いを、いのちの電話に求めている可能性があると考えられる。

※平均通話時間：28.9 分（男性 24.5 分、女性 32.4 分、その他 20.6 分）

表 1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	その他	2024 年 合計	2023 年 合計
10 代	136	72	1	209	221
20 代	328	308	4	640	752
30 代	1,269	930	20	2,219	2,183
40 代	1,738	2,115	9	3,862	3,952
50 代	2,524	3,041	9	5,574	5,313
60 代	1,487	2,259	6	3,752	3,677
70 代	309	1,608	1	1,918	1,598
80 代以上	44	258	0	302	204
不明	623	510	28	1,161	1,407
合計	8,458	11,101	78	19,637	19,307

図 1

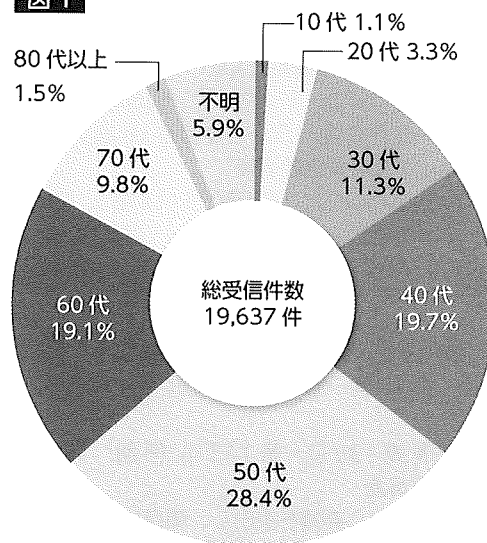
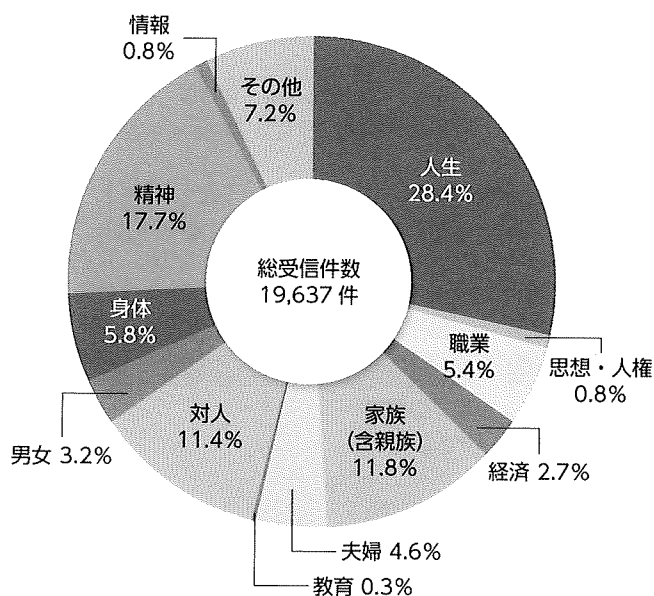


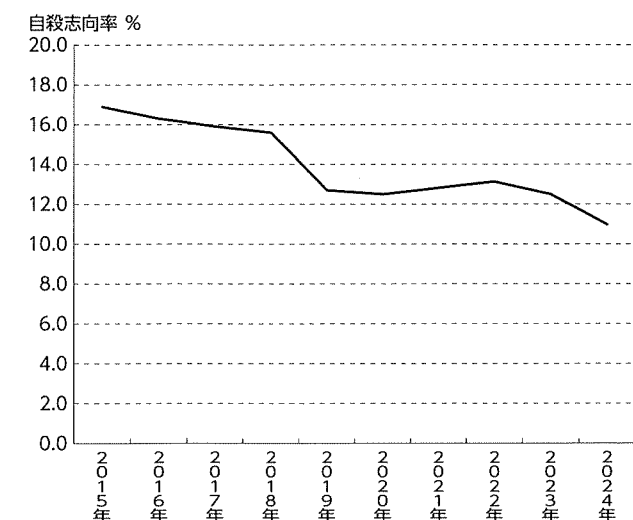
表 2 電話相談 内容別件数

	男性	女性	その他	2024 年 合計	2023 年 合計
人生	2,553	3,013	14	5,580	5,762
思想・人権	108	55	0	163	137
職業	465	591	1	1,057	901
経済	196	333	1	530	558
家族 (含親族)	595	1,725	2	2,322	2,140
夫婦	193	700	1	894	812
教育	26	26	0	52	59
対人	642	1,583	9	2,234	2,172
男女	332	282	10	624	520
身体	414	720	6	1,140	1,098
精神	1,784	1,685	9	3,478	3,373
情報	62	96	0	158	173
その他	1,088	292	25	1,405	1,602
合計	8,458	11,101	78	19,637	19,307

図 2

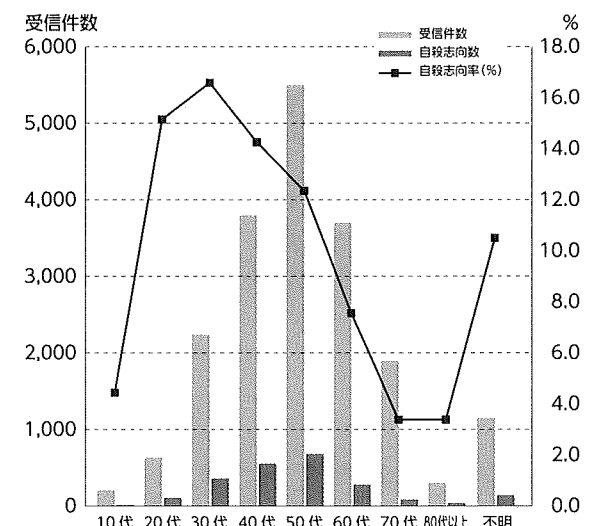


【図3】電話相談 10年間の自殺志向率



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
受信件数	27,161	25,443	24,135	22,194	21,440	16,626	15,594	17,384	19,307	19,637
自殺志向率(%)	16.9	16.3	15.9	15.6	12.7	12.5	12.8	13.6	12.5	11.3

【図4】電話相談 年代別受信件数と自殺志向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
受信件数	209	640	2,219	3,862	5,574	3,752	1,918	302	1,161
自殺志向数	9	102	369	559	693	288	70	11	123
自殺志向率(%)	4.3	15.9	16.6	14.5	12.4	7.7	3.6	3.6	10.6

● 事業報告（土曜医療相談）

カトリック医師会、キリスト者医科連盟などのボランティア医師により毎週土曜日 14 時から 17 時に行われています。2024 年の相談件数は 245 件、男性 104 名 (42.4%)、女性 139 名 (56.7%)、不明・その他 2 名 (0.008%) でした。月毎の平均通話数は、昨年同様約 20 件である。初回の方の通話時間は平均 25 分でした。

相談件数は 2023 年とほぼ同数でした。相談者の年齢は 40 代、50 代の順で、若年者からの相談件数は極めて少ない状況です。若年者の社会とのつながりは SNS が中心となり、医療情報がネットなどで容易に得られることが影響しているのでしょうか。

科目別では、精神科関連で治療中の方からが多く、次いで、内科、外科（含む整形外科）の順でした。全体に、治療を受けているが不安で、治療の経過に不満がある、主治医とうまく話せていない、という方が多いようです。繰り返しかけてくる方も多く、疾患・医療そのものの他に、医師や家族との関係性や病を持っているための生きにくさなど、複合的な相談やただ話したいという方もいます。

希死念慮のある方は少ないですが、持病があることで急に变化する可能性も高く、病気や治療について正しい情報を提供するなど丁寧に対応することが求められています。

科目別受信件数（2024 年 1 月～12 月）（複数回答あり）

	男性	女性	不明・その他	合計
精神科（心療内科）	48	95	1	144
内科	42	24	0	66
外科（整形外科）	18	24	0	42
婦人科・産婦人科	0	8	0	8
泌尿器科	1	0	0	1
皮膚科	1	8	0	9
耳鼻科	0	1	0	1
歯科	0	2	0	2
眼科	1	2	0	3
小児科	0	0	0	0
性について	0	2	0	1
エイズ	0	0	0	0
健康相談	0	2	0	2
美容形成	0	0	0	0
その他	7	7	0	14
合計	118	175	1	293

月別相談件数（2024 年 1～12 月）

	男性	女性	不明・その他	合計
1 月	7	14	1（ワン切り含む）	22
2 月	3	10	0	13
3 月	6	8	0	14
4 月	10	14	0	24
5 月	5	12	0	17
6 月	7	18	0	25
7 月	16	7	1	24
8 月	22	10	0	32
9 月	11	9	0	20
10 月	5	14	0	19
11 月	6	14	0	20
12 月	6	9	0	15
合計	104	139	2	245
2023 年				243
2022 年				302

● フリーダイヤル

全国のセンターが参加してフリーダイヤルで電話を受けている。

2024 年度の受信件数は、前年比 15.7% 増となった。自殺傾向が高いことが特徴である。

	男	女	不明	計
相談件数	194	250	0	444
自殺志向数	34	50	0	84
自殺志向率	17.5%	20.0%	0.0%	18.9%
平均通話時間（分）	19	24	0	21.5

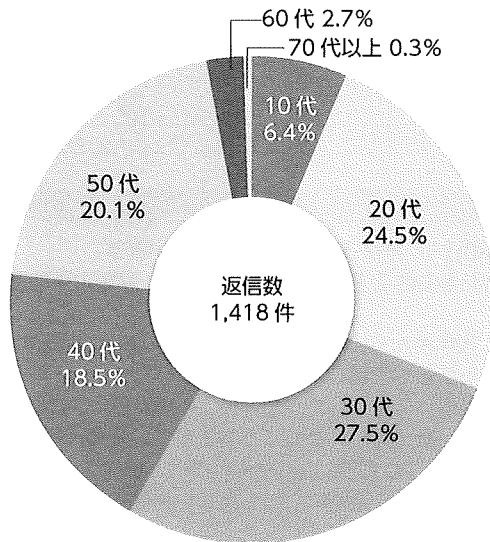
担当延べ人数 82 人 2024 年 1 月～12 月 FD 実績（毎日フリーダイヤル含む）

● インターネット相談

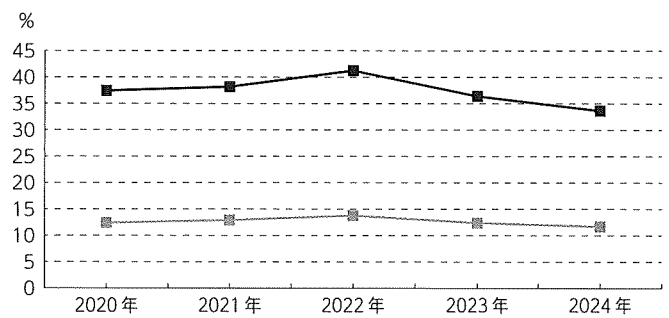
「いのちの電話みんなのインターネット相談」は、東京、埼玉、川崎、奈良センターの協同運営により実施し、2024年(1月-12月)の相談返信件数は1,418件(うち東京センター506件)、自殺志向率は33.6%となっている。性別(男性319件、女性970件、非開示129件)では女性からの相談が多く、年代別では若年層(10代以下-30代)からの相談が全体の58.4%、40代、50代からの相談が全体の38.6%となっている。相談内容では、人生(38.2%)、保健・医療(20.8%)、対人関係(13.3%)、家族(12.2%)の相談が全体の8割以上を占めている。

また、「日本いのちの電話連盟インターネット相談」は、引き続き盛岡、仙台、秋田、新潟、栃木、埼玉、東京、川崎、静岡、浜松、愛知、奈良、愛媛、福岡、熊本センターにより実施し、相談返信件数は1059件(うち東京センター19件)、自殺志向率は36.6%、性別は男性433件、女性590件、非開示36件となっている。

【図5】 インターネット相談 年代別

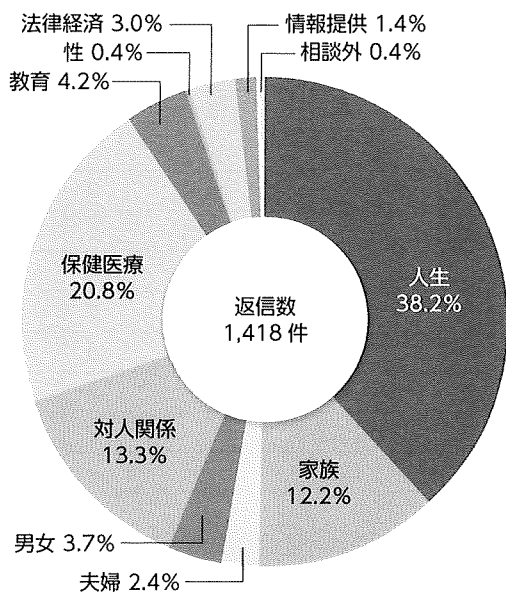


【図7】 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺志向比較

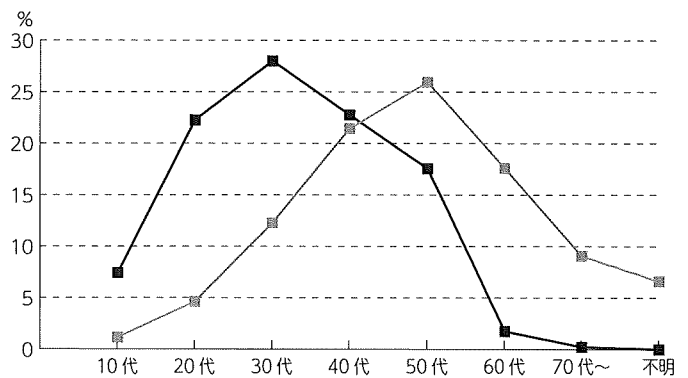


	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
電話相談%	12.5	12.8	13.6	12.5	11.3
ネット相談%	36.9	37.9	41.6	36.5	33.6

【図6】 インターネット相談 内容別



【図8】 2024年電話相談とネット相談の世代別比較



年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
電話%	1.1	3.9	11.3	20.5	27.5	19	9.3	7.3
ネット%	6.4	24.5	27.5	18.5	20.1	2.7	0.3	0

2024 年度 決算報告

2024 年度収支決算書 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)

単位：円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
賛助 (団体)	8,501,077	施設管理費	6,119,700
賛助 (個人)	9,048,643	相談員研修費・ボランティア厚生費	4,746,406
後援会チャリティ寄付	1,000,000	連盟連帯費	1,114,000
東京都電話事業補助金	1,825,000	通信費・交通費	1,925,256
東京都自殺対策強化事業補助金	5,000,000	広報印刷費・調査研究費	554,725
共同募金分配金	300,000	システム運用費	1,040,580
研修受講料	1,700,500	事務費・人件費	12,211,305
雑収入	354,025	事務用消耗品費	2,308,878
受取利息	16,015	什器備品費	974,746
減価償却資金積立金取崩	801,360	減価償却費	947,310
相談事業積立金取崩	3,396,286		
収入総合計	31,942,906	支出総合計	31,942,906

* 当期活動収支差額は △ 3,396,286 円です。

2024 年度貸借対照表 (2025 年 3 月 31 日現在)

単位：円

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金預金	6,193,188	未払金	637,284
未収入金	5,000,000	預り金 (公租公課・他)	47,386
基本財産特定預金	100,000,000	基本金	100,000,000
建物構築物	1,945,993	その他積立金	84,501,216
電話権利	1,355,020	正味財産増減差額	15,648,049
差入保証金	1,838,518		
積立金資産	84,501,216		
合 計	200,833,935	合 計	200,833,935

監査報告
社会福祉法人いづのの電話の2024年度(令和6年4月1日〜令和7年3月31日)における財務諸表および付属明細書、並びに附属資料の各事項について、社会福祉法人会計基準により監査したところ、その内容は適正かつ正確なものと認めます。
定款等規定にもとづく業務ならびに財務諸表、帳簿、記録等について監査した結果、適切に執行されているものと認めます。
多額報告またはその付属明細書は、法令及び定款にない、法人の利益を正しく示しているものと認めます。
理事の職務執行に関する不正の行為または誤りもしくは定款に違反する重要な事項は認められません。
令和7年4月22日
社会福祉法人 いづのの電話
監査 森田 宏利
監査 中村 浩也

2025 年度 予算書

2025 年度収支予算書 (自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)

単位：円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
賛助 (団体)	11,000,000	施設管理費	6,107,000
賛助 (個人)	9,500,000	相談員研修・ボランティア厚生費	5,271,000
後援会チャリティ寄付	1,000,000	連盟連帯費	1,120,000
東京都電話事業補助金	1,825,000	通信費・交通費	2,330,000
東京都自殺防止対策事業補助金	5,000,000	広報費・調査研究費	773,000
共同募金分配金	300,000	システム運用費	640,000
研修受講料	2,060,000	事務費・人件費等	12,168,000
雑収入	455,000	事務用消耗品費	2,230,000
受取利息	2,800	什器備品費	341,000
		減価償却費	145,950
		収支差額	16,850
収入総合計	31,142,800	支出総合計	31,142,800

2025（令和 7）年度 事業計画

社会福祉法人としての使命を十全に果たすため、組織が直面する諸課題に対処し、先見力・発信力を重視した組織運営を志向しつつ、具体的施策を立案・実行する。

1. 相談事業の安定的な実施

(1) 電話相談

年中・24 時間休みなく活動する電話相談の体制を維持し、活動を継続する。

(2) インターネット相談

インターネットによるメール相談活動を継続する。

(3) 土曜医療相談

協力医師による毎週土曜日の電話医療相談活動を継続する。

2. 相談体制の充実と強化

いのちの電話の理念に基づいた相談活動を継続するべく、相談体制の充実・強化を図るとともに、社会の変化への対応を進める。

(1) 電話相談員の誓約事項の遵守と、活動内容の活性化を図る。

(2) 相談員のモチベーションを維持し、支えるために、相談活動の成果を的確にフィードバックするとともに、相談実態に即した研修メニューを継続研修へ提供するなどの支援を推進する。

(3) 募集要項の周知の強化、応募動機への訴求拡大などによって、相談員応募の拡充を目指す。

また、相談員総数の維持・拡大に向けた制度整備を進める。

(4) 認定後の研修について、継続研修を基本として、全体研修、フォローアップ研修、個人スーパービジョンと連携を図りつつ実施し、サポート体制の強化につなげる。

(5) 社会の変化に対応するため、調査研究を進め、対応策の検討に取り組む。

3. 活動への支援拡大に向けての取り組み

いのちの電話が、広く理解され、支援を得るために、積極的な広報活動に取り組む。

(1) 後援会主催行事等の実施へ協力するとともに、クレジット寄付や遺贈等、活動への支援方法を多様化し、財政を健全化する。

(2) 積極的な広報活動を展開するとともに、公益的な活動に関心のある企業・団体に対して支援を働きかける。

4. 社会に対する相談技法等の提供

培ってきた危機介入や気持ちに関わる考え方・技法を地域に提供し、社会との連携を深める。

(1) 地方公共団体、企業、学校などにおいて、相談の技法等を体験・学習するプログラムを実施する。

(2) 危機介入や気持ちに関わる援助について、社会に広く紹介し、理解を広げる機会を拡充する。

5. 社会・外部組織との関係の強化

(1) 各種の支援活動、支援団体等との関係を充実し、活動の連携、活動基盤の強化、社会的認知の向上などを図る。

(2) 日本いのちの電話連盟や他のセンター等との協力関係を深める。

・厚生労働省補助事業自殺防止対策事業及び内閣官房 孤独・孤立相談ダイヤル等に参加する。

・他センターと協力してインターネット相談事業の拡充を図る。

社会福祉法人 いのちの電話役員等名簿

2025 年 5 月 28 日現在

任期 2025 年 5 月 28 日～ 2027 年定時評議員会終結時まで		任期 2025 年 5 月 28 日～ 2029 年定時評議員会終結時まで	
理事	職業又は所属	評議員	職業又は所属
末松 渉	(社福) いのちの電話 理事長 末松 T A コミュニティ研究所所長、臨床心理士	伊藤 俊文	(社福) いのちの電話 ボランティア
井村 華子	弁護士	岩田 淳子	成蹊大学文学部 特別任用教授 臨床心理士・公認心理師
大西 連	認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長 内閣府孤独・孤立対策推進 参与	菊地 俊暁	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 准教授
岡村 五十男	(社福) いのちの電話 後援会会長	北川 逸英	日本ルーテル教団関東地区 牧師
小澤 康司	立正大学 心理学部 教授	木原 勇	(社福) いのちの電話 ボランティア
久保 美紀	明治学院大学 社会学部社会福祉学科 教授	清水 昌代	社会福祉法人千代田区社会福祉協議会 地域サポート課地域サポート係 (ちよだボランティアセンター)
栗原 郁男	(社福) いのちの電話 ボランティア	杉山 恵子	(社福) いのちの電話 ボランティア
小柳 樹弘	(社福) いのちの電話 ボランティア	高瀬 幸子	産婦人科医師 日本産婦人科医会常務理事 順天堂大学産婦人科学教室非常勤講師
逸見 敏郎	立教大学 文学部 教授	樋田大二郎	関西国際大学教授 青山学院大学名誉教授
和田 恵美子	医師 日本カトリック医師会会長	藤盛 勇紀	日本基督教団富士見町教会 牧師
計 10 名		湯浅 聡	公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 事務局長
		渡邊 弘之	リードオフジャパン株式会社 代表取締役
		計 12 名	
		苦情処理第三者委員 岩田淳子 (大学教授)、畠山正誠 (弁護士)	
		50 音順 (理事長以外) 敬称略	

監事	職業又は所属
中村 清純	水町保険診療所医師
我妻 憲利	税理士
計 2 名	

後援会役員

2025 年 6 月総会日

任期 2025 年 6 月から 2026 年 6 月後援会総会日まで

会 長	岡村五十男
常任理事 5 名	大瀧加容子 神田佳和 木川道子 郡山直 渡邊富子
理 事 7 名	浅見正博 今村郁子 植村みどり 岡内泰子 各務啓子 徳川信子 野呂雅彦
監 事 1 名	冨部直希
顧 問 2 名	高村治子 中村武照

～撮影紀行 (東京千鳥ヶ淵)～ 小杉紀男 (表紙写真の撮影者)



桜の撮影のため、千鳥ヶ淵に行きました。

人が多く、桜を見ているより人を見ているような気持ちになりながら、ようやく見つけた場所です。ところがボートが多く、タイミングが合いません。ボートが少なくなるのを待つことにし、どのくらい過ぎたかわからなくなる頃、やっと撮れた写真です。

考えてみれば、何事も楽をして良い結果を得ることはできません。この事は、全てに通ずると思います。写真を始めて 60 年。若いころの辛い思い出も忘れるほどに、楽しんでいます。まさに、“趣味 (芸) は身を助ける”です。

《作者紹介》 小杉紀男さんの写真展取材して

取材当日、約束した駅で待つと、カメラを首から提げた小杉さんがゆっくりと現れました。

浅草生まれの小杉さんは、幼少時左目を失明し、右目も弱視に。長い治療生活の間、独学し 40 歳で銀行に入行したこと、病や障害を抱えながらもカメラを手に全国で写真を撮り続けたことを、穏やかな笑顔でお話くださいました。

展示会場では、千鳥ヶ淵で満開の桜とボートが浮かぶ様子や、足利フラワーパークのフジなど、写真 1 枚 1 枚を思い出と重ねて説明してくださいました。その説明に通行人も足を止め、耳を傾けていたのが印象的でした。

新聞記事掲載後、思いがけず「いのちの電話」事務局から連絡があり、機関誌に写真をご希望と伺い光栄でした。

小杉さんといのちの電話の皆様の益々のご清栄を心よりお祈り申し上げます。

東京新聞社会部記者・長竹祐子

後 援 会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるため、また相談員をはじめとする会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業（チャリティーバザー、映画会、コンサート等）の実施、センター内での相談員の便宜を図るため関連図書、古本販売、書き損じはがき、未使用切手の収集、ポートレートカード等の販売を行っています。

■ 2024 年度チャリティー事業報告

- 9 月 21 日（土）映画会「風をつかまえた少年」
（於：東京ウィメンズプラザホール）
図書館で出会った一冊の本を元に未来を切り開いた 14 歳の少年の奇跡の実話。
- 11 月 16 日（土）チャリティーバザー
（於：東京ルーテル教会 300A、300C、ラウンジ）
いつもご支援頂いている企業や相談員、OB・OG等 の個人の方からの献品により開催ができました。当日は折り紙ワークショップで交流を深めました。

物品販売にご支援して頂いた企業の方々

- ・株式会社エイワ ・ジャパンローヤルゼリー株式会社
- ・リードオフジャパン株式会社 ・ローズ産業株式会社 等

■ 2025 年度チャリティー事業計画

- 映画会「桜色の風が咲く」
2025 年 9 月 27 日（土）14：00～
会場：東京ウィメンズプラザホール
9 歳で失明、18 歳で聴力を失いながら、やがては盲ろう者として世界で初めて大学教授となった息子とその母の実話をもとに「生きる希望」を描きだす、真摯で温かな物語。
- チャリティーバザー
2025 年 11 月 29 日（土）10：00～
会場：東京ルーテル教会 300A、300C、ラウンジ
- 2024 年度 寄付実績
社会福祉法人いのちの電話へ 100 万円寄付

ご支援をお願いします

いのちの電話は相談員の無償の奉仕で支えられておりますが、24 時間 365 日電話相談を受け付けるには、運営費（研修費・広報費・事務費・借室料）が年間約 4,000 万円必要です。その運営費の大部分が、皆さまからのご寄付に支えられています。ご支援をよろしくお願いいたします。ご寄付の振込先に、みずほ銀行とクレジット寄付を加えました。

なお、ご寄附には税制上の優遇措置があります。

ご寄付振込先

<郵便振替>

00140-3-162972
社会福祉法人 いのちの電話

<銀行振込>

三菱 UFJ 銀行 神保町支店
普通口座 1084827
社会福祉法人 いのちの電話

<銀行振込>

みずほ銀行 飯田橋支店
普通口座 0543576
社会福祉法人 いのちの電話

<クレジット寄付>

Syncable
(シンカブル)



社会福祉法人

いのちの電話 (東京)

■ 電話相談 [24 時間受付中]

03-3264-4343

■ 自殺予防 [フリーダイヤル]

0120-783-556

(毎日16:00～21:00、毎月10日は8:00から
翌日11日8:00まで、通話料は無料です)

■ インターネット相談

<https://netsoudan.inochinodenwa.org/>

(日本いのちの電話連盟インターネット相談)

■ 東京いのちの電話ホームページ

<https://www.indt.jp/>

東京いのちの電話

検索



[発行日] 2025 年 6 月 [発行人] 末松 渉 [事務局] 〒102-0071 飯田橋郵便局留

[TEL] 03-3263-5794 (代) [FAX] 03-3264-4949 [HP] <https://www.indt.jp/> [印刷] 株式会社ユニックス